

# 読者へ

ユア・タックス・アト・ワーク

金沢区 秋山 郁夫

かつて遠い昔(?)新婚旅行に出かけた時のことである。建築中の公共建物の囲いに「ユア・タックス・アト・ワーク」(あなたの税金が働いています)と大きく書かれてあった。

税金を納めるのは、どちらかというとい快いとは言えないかもしれない。だから、その納めた税金がまさしく自分達の為に使われているのだ、ということとを納税者に知らせるのは大切なことではないだろうか。

区で仕事をしていると区民との関わりが必然的に多くなってくる。区民が何を一番求めているのか。それを肌で知るには区

役所はいい場所であるかもしれない。

とは言え、区民が何を求めているかを一言で言い表わすならば、税金が安く、余計な介入をせず必要な時に必要なサービスを提供してくれることであるかもしれない。

我々が、それぞれの領域に属している限り税金からは逃れるべくもない。それならば行政側から逆に積極的に税のPRをしたらどうであろうか。

日本では余り見かけないが、外国を旅行すると、よく建設中の建物の囲いのにぞき穴が高さのちがう所に三方所ほどつづられていて。

一番上に大人用、次いで子供用、そして一番下にはドック・オンリー(犬専用)という注釈が書いてあり、どんなものがつくられようとしているのか、のぞき穴を通して多少なりともわかるようにしてある。

ちなみに地方自治法には公園、道路、上下水道、学校、病院……の管理、設置等地方公共団体の処理する事務が数多く載っている。これからは折あるこ

とに市の事業をPRしていくことがより重要なことではないだろうか。

そんなわけで、「広報よこはま」のほかに市民と行政を結び効果的PR方法の研究がそのうち調査季報にでも載ってくれたらと、楽しみにしている次第である。

## いじめ問題に思う

企画財政局 田中 仁司

最近、テレビ、ラジオ、新聞などマスコミを通じて、「いじめ」という陰湿な行為が毎日のように報じられ、今や、社会問題にまで発展してきている。一時期の校内暴力に代わり新たに登場してきたのが、今日自殺にまで追い込んでしまいう「いじめ」である。なぜ、このような陰湿きわまる行為(いやがらせ・仲間はずれ・無視等)が生じてきたのか。その背景を考えると、①うちの子供に限ってという親の態度の問題②親・学校側による挨拶、躰け等を放任する傾向③偏差値教育・詰め込み教育等からくるストレスの発散④友達がなく孤独な子供達の増加

⑤テレビ、映画、雑誌等マスコミを通じての生命軽視の風潮等を挙げることができる。こうした状況を考えると、私達大人は一日も早く有効な対策を急がなければならぬ。そのためには、①親が子供達の日常生活態度等に目配りをし、親と子供達との信頼・絆を強める努力をする②子供達自身の悩みについて相談しやすいよう学校・教師側の環境整備③学校側によるいじめの芽生えの早期発見と指導の徹底④生命の価値を軽く見るマスコミサイドの番組の自粛等が考えられる。

真に子供達の将来を考える時、私達大人の責任は大きく、親・教師はもちろんのこと行

△あとがき▽ 遊びはうまいが仕事は受け身。喋るのは達者だが、話を聞くのは苦手。こうした新職員を「新人類」とかいいう。この新人類(異邦人)との付き合いと国際理解・交流とは、言葉の上で一脈相通するようで、実は、まったく似て非なるもの。よく通る吉田橋の袂に記念碑がある。その「開国百年祭」か

政、企業、地域、家庭において各々の役割分担を再度見直すべきである。そして学校、家庭、社会におけるそれぞれの教育を有機的に結びつけた社会の仕組みを確立し、「いじめ」という言葉のない、人間味あふれる明るい社会のなかで子供達が育って、くられることを望みたいものである。

「調査季報」は職員が自由に意見を発表し討論する行政研究誌です。「行政研究」への投稿も歓迎します。二〇〇字詰五〇枚以内。都市科学研究室まで(電話六七一一二〇二九)。

この一読者のページへもご投稿ください。市政、都市問題、自治体問題等、題材は自由。七〇〇字以内。

らさらに三〇余年、当時の健康児も旧人類として「市政百年」を迎える。ふと、歴史と伝統の中に生きる自己を見出す。

多元的価値観が共存する世に絶対的羅針盤はない。私達一人ひとりが、「我より古をなす」精神で、二十一世紀を指呼の間とした今の時代を生きなければと思う。

△下嶋▽